



ただひろ

# しまぐち忠弘



## 未来に誇れる愛知をめざして!

愛知県議会議員 嶋口 忠弘 常任委員会：建設委員会 委員／特別委員会：アジア競技大会調査特別委員会 副委員長  
全トヨタ労連顧問／アイシン労働組合顧問・専門部長

### 「新政あいち県議団」 令和4年度 施策及び当初予算に対する提言書を知事へ提出!!

1872（明治5）年11月27日に誕生した本県は、来年で150年の節目を迎えます。現在手掛けているジブリパークや国際芸術祭「あいち2022」、そしてSTATION AI、愛知県新体育館、愛知県基幹的広域防災拠点、愛知県畜産総合センター種鶏場の県政150周年記念事業、更には第20回アジア競技大会、リニア中央新幹線と続くビッグプロジェクトの推進により、地域の更なる発展につなげるとともに、これらを最大限活かして、イノベーションを創出する好循環を生み出すことで、将来にわたって日本の成長をリードし続ける愛知を形づくっていかねばなりません。加えて、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速させるとともに、ダイバーシティ(多様性)やインクルージョン(包摂)を一層意識した施策を展開し、誰一人として取り残さない、持続可能な社会をここ愛知から発信していく必要があります。新政あいち県議団では、「現場の声に」耳を傾け、その声に能動的かつ機動的に応えるべく、県が最重点として取り組むべき事項、更には重点事項を整理し、「令和4年度施策及び当初予算に対する提言」を取りまとめ、10月11日に大村知事へ提出しました。



### 主な最重点要望事項

#### I. 新型コロナウイルス感染症の克服

1. 新型コロナウイルス感染症対策の強化・推進
2. コロナ禍での長期化する雇用情勢の悪化に対する雇用の維持・創出
3. 観光消費を喚起するための政策の推進
4. コロナ禍における中小企業・小規模事業者支援の推進



#### II. 安全・安心なあいち

1. 大規模自然災害に備えた社会資本整備の推進
2. 交通事故防止対策の推進
3. 性暴力被害者支援への体制強化



#### III. あいちの発展と魅力的な地域づくり

1. ICT活用加速とDX推進
2. 2026年アジア競技大会の推進



#### IV. カーボンニュートラル社会の実現

1. 地球温暖化防止戦略の推進
2. 森林の整備・保全と次世代に向けた林業基盤づくり及び県産木材の利用拡大の推進



#### V. 誰もが活躍できる社会と次代を創る人づくり

1. 差別や偏見のない社会づくり
2. 子どもが輝く未来の実現に向けて
3. 教員の働き方改革と良好な教育環境の整備



◆提言内容詳細は、「新政あいち県議団」ホームページをご覧ください

<https://shinsei-aichi-kengidan.com/>



## 代表質問 (抜粋)

9月定例議会が9月17日～10月12日までの会期で開催され、自由民主党・新政あいち・公明党の3会派から代表質問を行い、新政あいちからは幹事長の森井元志議員(名古屋市守山区、4期)が登壇し、県政に関する諸課題について県の考えを質した。

### 主な質問① コロナ禍における医療提供体制の確保に向けての取り組みについて

**Q** コロナ禍における医療提供体制の確保に向けて、県はどのような取り組みを進めていくのか？

**A** **知事 答弁** 新型コロナウイルスの新規感染者数の急増に伴い、コロナ感染症患者の最大限の受け入れと、必要な人員を確保していただくため、コロナ患者受け入れ医療機関に対して医師が延期可能と判断した入院・手術の一時延期を医療機関に依頼し、1722床+αのコロナ専用病床を確保しています。なお、通常医療との両立も大変重要でありますので、救急や悪性腫瘍など時間の猶予がない疾患対応は継続していただるように併せて依頼しており、引き続き新型コロナウイルス感染症の医療提供と通常医療の両立にしっかりと取り組んでまいります。



質問する森井議員

### 主な質問② 次世代を見据えた産業の振興について

**Q** スタートアップ中核支援拠点「Station AI」における、今後の海外連携の取り組みについてどのように進めていくのか？

**A** **知事 答弁** 今回運営事業者として契約したソフトバンク株式会社は「Global」視点で、実績を活かして、プログラムを企画・運営するとともに、多言語でコミュニケーションできる人材を配置し、同社の国内外のグループ企業、新たなファンドの創設など、本県が培ってきた海外連携経験と連携し、本県に次々とイノベーションが創出されるよう、着実にスピード感を持って取り組んでまいります。

### 主な質問③ アフターコロナを見据えた人材の育成について

**Q** 本県のモノづくり産業が今後も持続的に発展していくために、デジタル人材の育成をどのように進めていくのか？



答弁する大村知事

**A** **知事 答弁** 県立高等技術専門学校名古屋校に「組込みシステム科」を、岡崎校には来年度から「3Dモデリング科」を設置、2025年度からは「ロボットシステム訓練科」を設置します。現在、企業からの要望に応じデジタル関連の訓練講座等を実施しており、今後も訓練カリキュラムの共同開発を進め、県庁内横断組織においても、デジタル人材育成の具体的な施策を今年度内に取りまとめてまいります。

### 主な質問④ 子どもたちの健全な育成に向けた取り組みについて

**Q** 増加する共働き家庭等の子どもが安心・安全に過ごせる放課後児童クラブの更なる充実、サービスの向上にどのように取り組んでいくのか？

**A** **知事 答弁** 県では、2015年度から放課後児童支援員の認定資格研修を、2017年度からは、5年以上の実務経験がある支援員に、発達障害児などへの支援や緊急時の対応など「キャリアアップ研修」を実施しています。また利用者サービスの向上を図るために、今年10月を目標に県独自のガイドラインを策定し、実施主体である市町村に周知を図るとともに、評価の実施を働きかけてまいります。

## 愛知県政トピックス①

# 「矢作川カーボンニュートラル(CN)プロジェクト」に着手!

### 【趣旨】

- 愛知県では矢作川流域をモデルケースとし、“水循環”をキーワードに、再生可能エネルギー等の導入による国土強靭化をはじめ、森林保全・治水・水道からエネルギーまでを含め、官民連携で総合的かつ分野横断的にカーボンニュートラルの実現をめざす。
- 既存のシステムやしきたりにとらわれず、流域マネジメント、エネルギーマネジメントを重視して、AIやIoTといった最新鋭の技術を駆使し、二酸化炭素削減、省エネルギーそしてSDGs達成につながる取り組みを進めていく。

### 【取り組みの概要】

#### 1. 治水対策

- ・河道内の伐採木や刈草及びダム等に捕捉された流木を活用したバイオマス発電
- ・流域治水関連制度を活用したグリーンインフラの取り組みの推進による二酸化炭素の吸収

#### 2. 既存ダムの活用

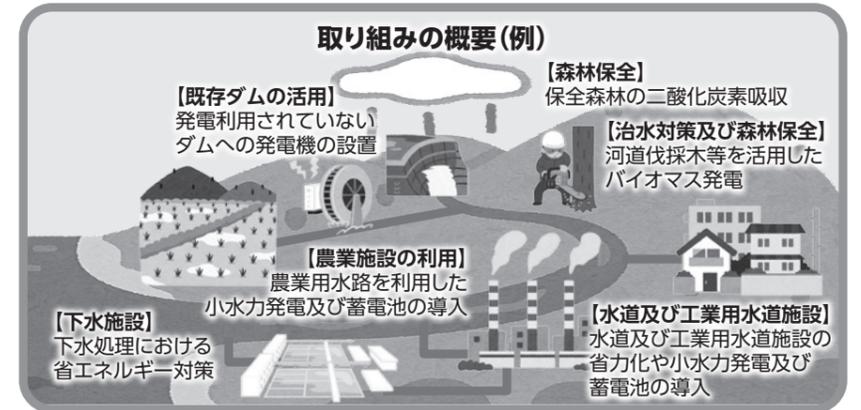
- ・維持流量及び治水のための放流量による発電
- ・発電利用されていないダムへの発電機の設定

#### 3. 森林保全

- ・地域山林の間伐材や未利用材を活用したバイオマス発電
- ・保全森林の拡大の可能性及び保全森林による二酸化炭素の吸収

#### 4. 農業施設の活用

- ・用水路を利用した小水力発電及び蓄電池の導入
- ・ため池での水上太陽光発電



#### 5. 水道及び工業用水道施設

- ・水道及び工業用水道施設の省力化や、小水力発電及び蓄電池の導入
- ・AI/IoTを活用したスマート水道化などによる施設の省エネルギー対策
- ・上流からの取水による位置エネルギーの有効活用などの水移送エネルギーの消費削減

#### 6. 下水施設

- ・下水処理における省エネルギー対策
- ・下水バイオガスや下水汚泥を活用したバイオマス発電

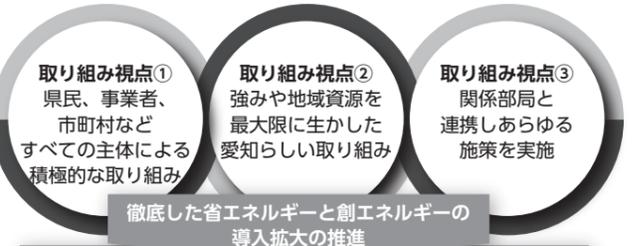
#### 7. 分野横断的な対策

- ・流域全体のダムの統合運用と容量再編の検討による治水、利水の強化
- ・個別対策の連携による相乗効果等の利点
- ・分野横断的な施策を進めるに当たっての課題(制度面・運用面)

## 愛知県の地球温暖化対策に関するこれまでの取り組み

1994年3月に県の地球温暖化対策を体系化した「あいちエコプラン21」を全国に先駆けて作成し、現在は2018年2月に作成した「あいち地球温暖化防止戦略2030」に基づき、取り組みを進めてきている。

## 温室効果ガス排出量の削減目標と取り組みの視点



2030年度の温暖効果ガス総排出量  
2013年度比で **26%削減**

# 来年、愛知県は県政150周年を迎えます。

1872(明治5)年に現在の愛知県が誕生してから来年11月27日をもって150周年を迎える事から、県庁内に「県政150周年記念推進本部」が設置されるとともに、周年記念のシンボルとなるロゴマーク(スタジオジブリプロデューサー鈴木敏夫氏制作)を作成するとともに、**愛知の将来の発展を牽引する象徴的なプロジェクトを「県政150周年記念事業」として6事業が選定されました。**

### ▼記念事業

|                  |                  |
|------------------|------------------|
| ① ジブリパーク         | ④ 愛知県新体育館        |
| ② 国際芸術祭「あいち2022」 | ⑤ 愛知県基幹的広域防災拠点   |
| ③ ステーションAi       | ⑥ 愛知県畜産総合センター種鶏場 |



▲県政150周年ロゴマーク

## 愛知県の沿革

現在の愛知県は、古くは尾張(木曾川・庄内川地方)、三河(西三河の矢作川地方)、穂(東三河の豊川地方)の3地域に分かれていましたが、その後は尾張・三河の2国となり、江戸時代まで続きました。

1871(明治4)年の廃藩置県の後、12県(名古屋県・西尾県・岡崎県・豊橋県・犬山県・重原県・刈谷県・挙母県・半原県・西端県・田原県・西大平県)が置かれ、同年11月に尾張(知多郡を除く)は名古屋県に、三河と尾張の知多郡は額田県となり、1872(明治5)年4月に名古屋県は愛知県と改められ、同年11月27日に額田県を廃して愛知県の管轄に移し、永く続いた尾張国、三河国は愛知県として統合されました。



# 自転車の安全利用促進に関する条例が全面施行。

「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が**10月1日に全面施行されました。**

この条例では、自転車に係る交通事故の防止と被害軽減・被害者保護に資することを目的とし、身近な交通手段である自転車の利用について、車両としての法令遵守を図り、歩行者・自転車と共に、安全・安心に通行できることが重要であるとの認識の下、社会全体で連携・協力して取り組むことを基本理念として掲げています。なお、条例制定に伴い、**自転車乗車用ヘルメット着用促進事業費補助金の創設**とともに、**自転車損害賠償責任保険等への加入が義務化**されましたが、自転車事故を補償する保険は様々な名称で商品化されており、知らず知らずに保険に重複加入してしまう可能性もあることから、保険加入の際はご注意ください。

### 愛知県内で自転車を利用する皆様にも、お願いしたいこと

#### 令和3年4月1日施行

家庭や学校、企業等での自転車の安全で適正な利用に関する**教育・啓発**

#### 交通ルールの遵守・歩行者等への配慮

- ・自転車の安全で適正な利用に**必要な知識と技能の習得**に努める
- ・車両の運転者としての責任を自覚し、**道路交通法その他の法令を遵守**
- ・**歩行者や他の車両の通行に配慮**し、自転車の安全で適正な利用に努める

#### 自転車の定期的な点検・交通事故防止対策等

- ・自転車を**定期的**に点検し、必要な整備を行うよう努める
- ・**両側面に反射器材**を備える等の交通事故防止対策に努める
- ・自転車で**鍵をかける**等の自転車の盗難防止対策に努める

#### 令和3年10月1日施行

#### 大人も子供も乗車用ヘルメットを着用

- ・自転車を利用するときは、**乗車用ヘルメット**を着用するよう努める

#### 自転車損害賠償責任保険等への加入

- ・**自転車損害賠償責任保険等**に加入しなければ**ならない**

詳しくは下記 URL を参照ください。

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/381755.pdf>



問合せ:愛知県防災安全局県民安全課 電話:052-954-6177(ダイヤルイン)



## 発行 しまぐち忠弘事務所

〒446-0059 愛知県安城市三河安城本町一丁目11番地1

TEL 0566-77-2874 FAX 0566-77-2724

ホームページ <http://www.giin-aiwu.com/shimaguchi/>

